

学校教育目標 ～支えあう・聴きあう・学びあう～

子どもたちが自分を再発見し、友だちを再発見し、学ぶことの価値と意味を再発見して「人生最高の6年間」を生み出す学校、そして、その営みを通して教師も親もともに育ちあう学びの共同体としての学校でありたい。

満開の桜で迎えた始業式・入学式から約一か月が経ちました。3時間の授業で始まった1年生は、18日から給食も始まり、少しずつ小学校生活に慣れてきたようです。掃除の時間に、6年生が手伝いに来てくれるのですが、大きなお兄さんお姉さんの後ろにつながって、ほうきの使い方を真似しながらついていく姿はとても微笑ましいものです。6年生にとっても1年生に頼りにされることで「最高学年」としての意識の高まりが見られています。6年生が積極的に1年生に声をかけ、ほうきの使い方を教えてあげたり、上手にできたことを褒めてあげたりする姿は頼もしい限りです。



新型コロナウイルスの感染状況により、様々な活動について制限されてきましたが、制限された中での工夫と感染症対策を講じながら、こうした学年をこえた「支えあう」「聴きあう」「学びあう」環境を大切にしていきます。

さて、4月22日に「地震津波避難訓練」を行いました。今回の訓練は、授業中に突発的大地震が発生し、直後に津波警報が発令された場合を想定したもので、その際の身の守り方や避難の仕方を確認しました。訓練の流れの以下の通りです。

○突発的大地震が発生

- ・揺れがおさまるまで机の下に入り、身体を守る

○揺れがおさまったあと、津波警報が発令

- ・防災ヘルメット（1年生は帽子）を被って、3階へ避難
- ・避難の時の約束「お（おさない）か（かけない）し（しゃべらない）も（もどらない）」



訓練の終わりに私から振り返りとして「どうして」机の下に入るのか、ヘルメット（帽子）を被るのか、「おかしも」を守るのかを問いかけ、いざという時に、自分の命を守る、みんなの命を守る行動ができるよう、練習したことを忘れないようにと伝えました。

自然災害はいつやってくるかわかりません。もしもの時のために、家族での約束や行動をご家庭で話し合ってください。